

施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

長崎県総合計画における位置付け

将 来 像	交流でにぎわう長崎県	作 成 年 月 日	平成30年10月26日	長崎県総合計画記載ページ	31	P
基 本 戦 略 名	2 交流を支える地域を創出する	施 策 主 管 所 属	土木部都市政策課			
施 策 名	(1) 時期を捉えた魅力あるまちなみの整備	課 (室) 長 名	課長 植村 公彦			
		施 策 関 係 所 属 (部 局 名 課 名)	企画振興部県庁舎跡地活用室、 土木部道路維持課 住宅課			

1 施策の内容

【取組の概要】	九州新幹線西九州ルートの開業を見据えた都市の再生や景観形成を推進するなど地域の個性を活かした魅力あるまちなみの整備に取り組みます。	【めざす姿】	魅力あるまちなみが整備され、地域が活性化している。
---------	---	--------	---------------------------

2 施策の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価

□ A : 順調 □ B : やや遅れている ■ C : 遅れている

<<これまでの成果>>

- 景観計画の策定等に対する市町への財政支援や公共施設建設等への景観アドバイザー派遣等の技術的支援を行い、平成29年度の目標である14市町において景観計画の策定が行われた。
- 長崎駅周辺エリアで整備される施設のデザイン調整に取り組むことで、魅力ある都市景観の創出を推進し、都市再生に向けた施策の推進に寄与した。

以上より、施策の成果指標は目標達成に至っていないが、施策内の事業群の数値目標については全体的に好調である。

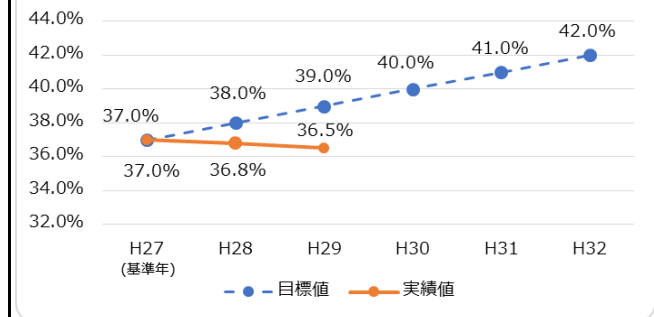
- 県庁舎跡地活用策の3つの方向性のうち、広場と交流・おもてなしの空間について、整備する場合に考えられる個別の機能などの検討を進め、県議会に検討状況を報告した。
- 交通機能等についての検討調査を実施し、その結果を県議会に報告したほか、県内外の有識者等へのヒアリングや先進事例調査、長崎市との定期的な協議を実施した。
- 県警本部跡地活用について、民間活力導入可能性調査を実施し、ホテルやオフィス、これらを含む複合施設の整備可能性について検討を実施した。

- 九州新幹線西九州ルートの開業を見据えた新幹線駅周辺整備が進められており、長崎駅周辺、諫早駅周辺、及び新大村駅周辺での事業は計画通りに進んでいる。

<<進捗状況に課題がみられる分野>>

- 県庁舎跡地の文化芸術ホールについては、長崎市の新たな文化施設の検討状況を確認しながら、適切な時期に今後の方向性について判断する必要がある。

まちなみや景観が良くなっていると思う人の割合



3 施策の成果指標の進捗状況

指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
まちなみや景観が良くなっていると思う人の割合	目標値①		38%	39%	40%	41%	42%	42% (H32年度)	魅力あるまちなみ整備や景観形成に向けて、景観形成やまちなみ整備の基本方針となる景観計画の策定等に対する市町への財政支援や公共施設建設等への景観アドバイザーの派遣、定期的な県市町の連絡会議の開催などの技術的支援を行うなど、各種施策に取り組んでいるが、具体的な整備計画等の進捗が県民に実感できる状況にまで進んでいないため、目標を達成するには至らなかった。 また主要交通拠点・周辺市街地等のまちなみや景観の整備については現在、新幹線開業や高架化等を控えて中心部が大きく変わる過渡期であるため、県民が成果を実感として感じる域に達するにはもう少し時間を要する。
	実績値②	37% (H27年度)	36.8%	36.5%				進捗状況	
	②/①		96%	93%				遅れ	

4 新たな課題や社会情勢の変化等

●跡地活用策の1つとして検討している「質の高い文化芸術ホール」については、平成29年2月の県議会からの意見書にあるように、長崎市が整備を検討しているMICE施設におけるホールとの機能重複に関する調整を確実にする必要があるので、MICE施設建設の構成員が指名停止により参加資格を失ったことから、長崎市はH30.2議会での施設整備費予算議案の提出を見送った。

<県政世論調査・審議会等での意見・各種アンケート等の実施結果>

●平成30年5月に実施した「長崎県の取組に関する県民意識アンケート調査」において、「長崎県内の「まちなみ」や「景観」を良くするために現在足りないと思う取組はどのようなものか」という設問の結果は以下のとおり。

「自然景観の保全」34.3%

「歴史的・伝統的まちなみなどの整備」32.8%

「主要交通拠点及びその周辺市街地等のまちなみや景観の整備」30.8%



5 課題を踏まえた今後の対応方針

●参加資格を失った構成員の代替企業が見つかったことにより、長崎市は平成30年6月市議会においてMICE整備予算議案を提出し可決された。そのため、今後は、長崎市が市庁舎跡地で整備を検討している新たな文化施設の、現時点の整備場所も含めた整備に関する考え方を確認したうえで、今後の方向性を判断し、基本構想を策定していく。

●現在、景観施策検討部会を立ち上げ、景観施策の方向性を検討し事務事業を見直すこととしている。今後は、新たな景観施策を実施することで、地域の特徴を活かした魅力ある景観形成に取り組み、県民がまちなみや景観が良くなったと実感できるよう目指していきたい。

●平成34年度の九州新幹線西九州ルートの開業を見据えて、新しい長崎駅舎周辺の施設や公共空間のデザイン調整を行うことで、国際交流拠点都市長崎の玄関口にふさわしい魅力あるまちなみ景観と機能的な都市空間の創出に取り組んでいく。

●長崎駅周辺において、周辺環境と調和した良好な景観形成を目的としたデザイン調整の対象は、公共施設に留まらず民間施設にまで広範囲に及んでおり一定の方向性が生まれているので、今後も一体的で魅力あるまちなみや景観の形成に向けて、引き続き取り組んでいく。

6 施策を推進する事業群の状況

事業群①「新幹線開業に向けた駅周辺の整備」

事業群評価調書2-(1)-①③ 参照

事業群②「長崎らしい景観形成・まちなみ環境整備の推進」

事業群評価調書2-(1)-② 参照

事業群③「県庁舎跡地整備の推進」

事業群評価調書2-(1)-①③ 参照